

オッズパーク杯



12/21(木) 22(金) 23(土)



川崎スポーツ

レース展望

12月21日からの川崎競輪はオッズパーク杯として行われるF2戦で、ナイターでの開催となる。ガールズケイリンも含めた12レース制。今期最終戦となる選手がほとんどで、それぞれ来期に向けて弾みを付けていきたいところ。

A級1、2班戦は地元の関根健太郎(神奈川100期)が中心。近況は振るわないが、地元のエースとして活躍が期待される。小笠正義(千葉88期)と共に優勝戦線の中軸を担う。ホームバンクの大西健士は今期苦戦が続いているが、地元戦で足がかりを作りたいところ。北日本勢は機動力高

い上遠野拓馬(宮城119期)がV候補の一角。ベテラン岡部芳幸(福島66期)も先日まくりの決まり手を付けるなど、まだまだ剛脚ぶりは健在。関東勢は層が厚い。小池千啓(栃木119期)と長谷川飛向(東京121期)の積極的な自力2人を筆頭に、自在な水森湧太(東京117期)や城幸弘(山梨96期)らが顔を揃えており、今シリーズは優勢とみる。

チャレンジ戦はA級1、2班戦と同様に東日本3地区からのあっせん。望月裕一郎(静岡65期)を父に持つルーキー望月嘉人(静岡123期)と、復調してきている渡邊

直弥(静岡113期)の静岡コンビがシリーズの中心。北日本、関東の両地区は目立った機動型が居らず、苦戦を強いられそう。

ガールズケイリンは石井寛子(東京104期)の欠場により追加あっせんされた奥井迪(東京106期)がシリーズの中心。抜群の機動力を発揮してVを奪取するか。力勝負で応戦するのが底力ある岩崎ゆみこ(茨城116期)で、11月に2Vを挙げており好気配。當銘沙恵美(愛知118期)も力を付けてきている。巧者中村由香里(東京102期)や高橋朋恵(東京108期)らも虎視眈々と逆転のチャンス待つ。

主力の脚力接近で混戦のV争い

A級
主力選手



関根健太郎 神奈川100期

地元の軸となるのは関根健太郎。ダッシュ力を生かした自力に加えて、いざとなれば好位で粘る走りも奥の手に持つ。近況の成績はいまひとつだが、来期はS級に復帰も決まっている。昇級後好スタートを切るためにも、地元Vで弾みを付けておきたいところだろう。

A級
主力選手



上遠野拓馬 宮城119期

来期は初のS級に挑戦する上遠野拓馬。競走で持ち味のダッシュを生かし切れずに、デビュー後はやや苦戦していたが、近況は先行と捲りを上手く使い分けて安定感が増している。8月以来優勝は無いが、今シリーズも北日本ラインをしっかりとけん引するはずだ。

A級
主力選手



長谷川飛向 東京121期

デビュー直後は同期に出遅れている感もあった長谷川だが、積極的な走りを続けて着実に力を付けており、S級も目指せる位置まできている。小柄な体格ながら強気な突っ張り先行が持ち味で、やむなく後手を踏まされた場合に時折放つ捲りも強力で魅力は十分。

A級
注目選手

渡邊直弥 静岡113期



力強い自力でS級に駆け上がった渡邊直弥だが膝の負傷の影響でチャレンジ戦まで陥落。しかし、ようやく復調の兆しも見えている。近況は人の後ろを回ったり、自在な走りにも適性を感じている様子だ。ルーキーの望月嘉人と共に、優勝争いの本線を形成しそうだ。

ガールズ
注目選手

奥井迪 東京106期



デビュー以来先行基本の走りで常にトップクラスに位置する奥井迪がシリーズの中心。40代を迎えても、まだまだ若手選手を相手に元気いっぱいな走りをを見せており、今年は節目の500勝も達成した。今年の最終戦をVで決めて、来年の巻き返しに弾みを付けたい。

対馬太陽神奈川選手会支部長に聞く川崎新バンクガイド



対馬太陽選手(神奈川85期)

バンクやスタンドの改修が行われた川崎バンクは、かなり特徴に変化が見られそう。ホームバンクの南関東地区本部長でもある対馬太陽選手(神奈川85期)に聞くと「バンクがきれいになり、走路のガタツキが取れて、クセも無くなり走りやすくなった。あとはホームの向かい風が少し強く感じるようになった気がします」と話す。同じ南関東地区なら、平塚や静岡競輪場に近付いたイメージで最初は予想してみたい。

競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。